



軍事同盟から平和の共同体へ

日米安保改定 50 年を考える

前田 哲男(軍事ジャーナリスト・沖縄大学客員教授)

私は一九三八年、昭和十三年の生まれです。やがて七十二歳になります。最近、集会に行きますと、最年長ということで、若い聴衆を前にしてお話することが多く、今日の不戦兵士の会は、私が若輩として通じる会合で、ほんとに久しぶりだし、安心してお話してできるな、という気がいたします。

『軍縮問題』と「不戦兵士・市民の会」

不戦兵士の会との付き合いはずいぶん長く、ごく初期から存じ上げています。一九八〇年代、宇都宮徳馬先生※が参議院議員になりましたが、そのとき、先生は、軍縮を公約に栗栖弘臣（くりすひろおみ）※という元統幕議長を相手に東京選挙区で戦いました。

宇都宮先生は、「当選したら、私は軍縮を政治課題とし、その普及のために研究所をつくる」と言われ、みごとに栗栖さんを破り当選したのです。

栗栖さんという方は、「自衛隊は有事の際、超法規行動をする」と言って解任された方で、自民党と民社党の推薦を受けていました。

この栗栖さんを破り、『軍縮問題資料』という、「宇都宮軍縮研究所」の機関紙としての雑誌が発行されたのです。その『軍縮問題資料』に書いたり、編集のお手伝いをしたりしていたので、八〇年代の末に不